

指導のポイント

- 授業のねらいの根底にある道徳的価値を児童が一層主体的に考えられるようにします。
- 児童が思考を一層深めたり、考えを整理したりできるよう、教師が意図をもってまとめた話をするのが大切です。

具体的事例

◎ 説話とは・・・

・教師の体験や願い、あることについての感じ方や考え方などを語ったり、日常生活問題、新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた問題などを盛り込んで話したりすることによって、ねらいの根底にある道徳的価値を児童が一層主体的に考えられるようにしようとするものです。

説話の素材例

ア 教師の体験や願い

ねらいにかかわるような教師自身の思い出や体験、そのときの感じた気持ちや今思うことなどを語ります。

写真や思い出の品物などを見せながら話すのも効果的！

教師自身の人間としての弱さや失敗談などを話すことで児童との信頼関係が増すこともあります。

イ 児童の日常生活における身近な話題

ねらいにかかわる身近な出来事についてふれながら、問題を投げかけるのも一つの方法です。

新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた話題なども活用できます。

「どうすればよかったのかな？」「何が大切だったのかな？」など投げかけて、そのまま答えを出さずに終わることで、児童により深く考えるきっかけを与えることもできます。

ウ ことわざや格言、詩や絵本など

- ・ことわざや言葉
- ・様々な詩人の詩
- ・偉人の言葉
- ・短い絵本の中の一節の朗読（絵）

様々なねらいに合わせて、素材を日頃から準備しておくといいですね。

エ 地域・日本の自然や伝統にかかわる話題

- ・写生会の絵（先輩や卒業生のものなども）
- ・地域の森や川など自然の写真
- ・伝統芸能等の映像や音声
- ・校舎や学校行事などの歴史やエピソード



写生会での校舎の絵



地域の伝統芸能の練習風景

オ 「私たちの道徳」(文部科学省)

- ・内容項目ごとにコラムや格言などが掲載されており、活用できる資料が豊富です。

留意点

- 教師自身も児童とともに、人としてよりよく生きることについて、真剣に考え、悩み続ける「同じ一人の人間」である、という気持ちで語ることが大切です。
- 最後にもう一度ねらいを確認するような、押しつけた話し方にならないように気をつけましょう。「～だから～ということです。わかりましたか？」などは避けま
- 児童生徒自身の中にある、本来の人間性を引き出し、自分自身の生き方について自ら深く考えようとする姿勢を急がずに少しずつ育てていくように心がけま